# アートグループ マジョプラス

「街をアートで 楽しくしたい」という思いで集まったアーティストたちは、現在13名。月はじめの7日間、古民家を舞台に作品の展示・販売やワークショップなどを行うほか、「亀山トリエンナーレ」にも参加・協力しています。作家それぞれの個性を大切に、身近で親しみやすい表現で、まちと人とアートをつなぎます。

art group majo

代表　森 敏子さん

**お問い合わせ**

「アートグループ マジョプラス」
TEL 0595-82-4125
（代表　森 敏子さん）

亀山市東町商店街。店と店の間の細い路地を入ると、こぢんまりとした古民家に出ます。ここは「マジョプラス」の活動拠点「アートスペース・崖の上」。作品の展示された和室で、代表の森敏子さんにお話を伺いました。

**――「崖の上」という名の通り、高台からの眺望が気持ち良いですね。**

森…思いがけない風景でしょう。市内に住む方でも、「商店街の裏にこんなに良い眺めが広がっているとは知らなかった」と言われます。ここで、3～7月と10～12月の1～7日、会員たちの作品を展示・販売しています。風景や古民家の場の力とアートが響き合って、〝いい感じ〟を醸し出してくれます。毎月20日には、会員が交替で講師を務めるワークショップも開いています。

**――現代芸術は難解で敷居が高いというイメージがありますが、こちらに並んでいる作品は親しみやすいですね。**

森…元々、商店街の衰退を見て「まちをアートで楽しくしたい」と集まったメンバーなんです。だから楽しく見てもらうことを心がけています。特にアート好きというのではない人たちにも気軽にアートを楽しんで欲しいんです。毎回、季節に合わせてテーマを決めるのですが、細かな取り決めはせずに、それぞれの作家の個性を大事にしています。

**――会員はどんな方々ですか。**

森…女性ばかりではじまりましたが、現在は男性も入って、13名になりました。アクセサリー作家の小倉 咲穂（さほ）さん、イラストを描く川崎 志帆さんと西川 真紀さん、陶芸の倉岡 茉希さん、日本画の黒江 めぐみさん、布を使った作品を作る近澤 恵梨さん、洋画の平松 典子さん、刺繍作家の松岡 歩未（あゆみ）さん、手芸家の鷲尾 敏美さん、マクラメ編みをする渡瀬恵子さん、クラフト作家の井谷 うらんさん、立体造形の山田 風雅（ふうが）さん、そして私は洋画家です。ジャンルもバラエティーに富んで、作風もそれぞれ違っていて、違いがあるのがいいのです。

**――森さんは画家の他、長く絵画教室をなさってるんですよね。**

森…私の子どもたちが小さい頃、遊びに来たご近所の子どもさんたちと一緒に絵を描いたことから自然発生し、1980年に「子ども絵画教室 アトリエ エピ」を開きました。これは今も続いていまして、今は長男も手伝ってくれています。「マジョプラス」のメンバーにも何人か教室の卒業生がいるんですよ。大人になってからも、それぞれの分野で作品を制作し続けていてくれて、とっても嬉しいんです。

**――教室以外にも、地域の芸術文化を牽引されてきたと聞いていますが。**

森…まち・人・アートが混じり合える場所にしていきたいと思い、平成20（2008）年に「アート亀山」を企画しました。たくさんの方のご賛同とご協力を得て、平成25（2013）年まで毎年開催し、平成26（2014）年からは「亀山トリエンナーレ」として3年に1度開催しています。今年も10月30日から11月19日まで、いろいろな企画が行われます。私は実行委員会の事務局長兼ディレクターですが、「マジョプラス」のメンバーも全員参加・協力してくれます。

**――どのような内容ですか。**

森…今回は、アメリカやメキシコ、韓国など海外の作家も含めて95組が参加します。旧東海道沿いに点在する民家や市指定文化財、寺社仏閣などを展示会場として、昔の〝亀山宿〟にさまざまな現代アートがあふれるんです。他にも、南條史生さんの講演会や優れた新人作家を顕彰する「亀山トリエンナーレ賞」、「世界のドキュメンタリー作品上映」など多彩です。11月3日には「亀山モンマルル」という、みんなが街角で絵を描いて、亀山を絵描きだらけのまちにしようという企画もあります。新人作家の発掘や国際交流の促進にも一役買っているんですよ。

**――まさに、亀山を舞台としたアートの祭典ですね。〝亀山宿〟にアートがあふれるのを楽しみにしています。**

インタビュー…堀口 裕世

眼下に緑と街並みが広がる

作品を飾った和室

作品の個性が響き合う展示

ワークショップも楽しく ※

「亀山トリエンナーレ2022」

＊日程等変更される場合もありますので、お出かけの際はウェブサイト等でご確認ください。

※印の写真は取材先から提供していただきました